

市民と歩む議員の会 議会報告

発行 市民と歩む議員の会 〒564-0041 吹田市泉町1-3-40 (吹田市役所内) TEL 06-6384-1231(代表)

吹田市議会議員(無所属)

ば ば
馬場けいじろう

みんなで創ろう
元気な吹田!!



連絡先 〒564-0041 吹田市泉町5-3-5 TEL 06-6389-8555 FAX 06-6389-8558
E-mail babakeijiro@gmail.com URL http://www.baba-keijiro.com

校区変更など 教育環境について

馬場 校区変更の可能性があることについて、一般市民はもちろん、保護者への周知も進んでいない。積極的な情報発信はしないのか。

学教 「学校規模適性化基本方針」に関する市民意見の募集(パブリックコメント)の実施に伴い、市報すいたや本市ホームページに掲載した。

馬場 各校のPTAなどから求めがあれば、現状の説明や今後の方向性についての説明会を開催するか。

学教 吹田市PTA協議会に説明の場を設けたいと考え、関係部署と調整中である。

馬場 PTA協議会への説明だけでは不十分で、各校PTAに対しても、早期に説明の場を設ける必要がある。

開発行為にともなう学校規模の肥大化

馬場 パブコメでは、大型開発の規制を求める意見もあった。千里丘ミリカヒルズの開発にあたって、市は事業者に対し、児童数が急激に増えないよう意見したはずだが、千里丘北小学校はあつという間に大規模校になってしまった。これは想定内なのか。

学教 段階的な住宅開発となるよう、事業者と十分協議したが、実際の入所者が想定以上に子育て世帯が多く、教室不足が発生した。

馬場 校区変更を実施しても、開発に伴いすぐに大規模校に逆戻りすることが懸念される。想定の精度を高め、より抑制的な入居計画となるよう要望する。

少人数学級の実現に向けて

馬場 パブコメでは、少人数学級・ダブルカウントの実施を求める意見が最多となっていた。また、不登校生徒が増えるなど、きめ細かな対応が必要とされることから、中学1年生を先行させてのダブルカウント(支援学級在籍児童を普通教室の児童数に加えること)実施を求める陳情書も提出されている。

市内中学校において、今年度、支援学級在籍児童を含めば、在籍児童数が41人以上となっているクラス数とそれを解消するために必要な教員の数を示してほしい。

教育監 34学級で、解消に必要な教員の数は10人である。

馬場 中学1年生での全面实施、それが叶わないならモデル校を指定しての部分実施、それぞれの実現性を示してほしい。

教育監 中学1年生での全面实施は、教室の確保や人員確保の点から困難だと考えている。

一部の学校では加配教員を活用した35人学級を実現しているが、教科ごとの少人数指導の充実、教職員の業務負担の軽減など、解決すべき課題も多く、加配教員の最善な活用について検討していく。

馬場 府が負担する加配教員を活用して、少人数学級か少人数指導かを選択するのではなく、どちらも実現できるように、他市のように市の予算による人員増をかねてより求めている。

教室の確保も大きな予算をかけず実現できることであり、子どもたちに良好な学習環境を整備したいのかがどうか、市の本気度が問われている。

教育現場への外部人材の活用

馬場 昨年、任期付き校長を募集したが、採用には至らなかった。その原因をどう分析しているか。

教育監 任期付き校長の募集・採用は大阪府教育委員会が実施しており、詳細はわからない。

馬場 学校現場は極めて閉鎖的であり、外部人材がもたらす効果は多大なものがあると考え。来年度には再度募集すべきである。

学校施設のバリアフリー化

馬場 学校施設におけるバリアフリー化の一層の推進について、各学校における整備目標を盛り込んだ整備計画を策定するよう、令和2年12月に文科省の通知が出た。本市の検討状況を示してほしい。

学教 本市の各学校は、敷地条件や建物配置・構造などの状況が異なるため、現状の把握に努めている。

馬場 屋内運動場が1階以外に設置されている学校数とその設置階、およびエレベーター等が設置済みか、別の移動経路・移動手段が確保されているか、示してほしい。

学教 校門の位置を1階とすると、2階が10校、3階が2校、地下階が2校である。

そのうちエレベーターを利用して屋内運動場まで移動できるのは3校、その他の移動経路・移動手段が確保されているのが2校である

残りの9校については、配慮を要する児童・生徒が入学する際にエレベーター設置等を検討していく。

馬場 屋内運動場は避難所にもなる。配慮を要する児童・生徒の入学の際ではなく、学校施設のバリアフリー化の整備計画に盛り込むよう求める。

いじめの相談をしやすい場所に

馬場 文部科学省が公表した、不登校を経験した小中学生へのアンケート結果によると、学校を休むことについて相談した相手について、家族がほぼ半数だった一方、「誰にも相談しなかった」が40%前後であった。教員や学校にいるカウンセラーに打ち明けるケースが少ないことについて、どう考えるか。

教育監 不登校に至る理由は様々であり、家庭と連携し、丁寧に個別の状況を把握するよう努めている。その上で、児童・生徒が相談しやすい相談先や相談方法等の選択肢を拡げることがこれまで以上に重要だと認識している。

馬場 教職員等のカウンセリングマインドの養成に努めてほしい。

放課後等の子どもの居場所について

馬場 留守家庭児童育成室（学童保育）の指導員は慢性的に不足しており、誰をどこに配置するか、市職員が毎日その調整に相当の時間と労力をかけており、抜本的な改善が求められる。

民間委託先の事業者では、法人内で午前中は保育所などで勤務し、午後からは育成室で指導員として従事させるなど、臨機応変に職員を配置できるため、必要な人材を確保しやすいとの答弁があった。

市直営の育成室を維持するには、指導員の待遇改善は必要不可欠である。公立保育所を活用し、同じように午前中は保育所、午後からは育成室で従事ということとはできないのか。

地教 ご提案の内容については、制度上の観点等から課題が多いと認識している。

担当としては、類似した業務を行う関係所管とも情報共有しつつ、様々な方策により積極的な指導員の確保に取り組んでいく。

課外クラブ・部活動の民間委託

馬場 市内小学校において、本年度より課外クラブがいくつか閉鎖されたと聞く。ここ数年の状況を示してほしい。

教育監 総数では、令和2年度が114、令和3年度は109と5クラブの減少となっているが、5校で減少、4校では増加している。

馬場 名古屋市では、昨年より約半数の小学校で部活動を民間運営に替え、本年9月からは全校に拡充させた。放課後に部活動のために抜ける教員がいなくなり、コミュニケーションがとりやすくなるなど、児童、教員双方にとってプラスの側面が多いようである。

また、つくば市では、各校が独自に保護者や地域スポーツ団体と協力して市民クラブを設置し、平日の部活動の一部を委託する方式で、昨年度までに3つの中学校で実施。今年度さらに2校で同様の取り組みを始めている。

部活動や課外クラブの民間委託について、どう考えるか。

教育監 本市では、教職員が熱心に課外クラブや部活動の指導を行ってきた経緯を踏まえ、部活動指導員や外部指導者の派遣を行い、活動の支援に努めてきた。

現在、休日の部活動の段階的な地域移行について、スポーツ庁による検討が進められており、その動向に注視している。

ヤングケアラー支援について

馬場 神戸市では、本年6月1日に全国初となるヤングケアラー相談窓口を設置し、11月19日時点で100件の相談があったとのこと。福岡市も11月に専用相談窓口を設置した。

吹田市では、市のホームページで「ヤングケアラー」を検索してもどこにもヒットしない。どこに相談すればいいか不明確であり、専用窓口を設置すべきである。

家庭 現在は子どもに関わる機関がそのような家庭環境にある児童を発見した場合は、関係機関が連携し、福祉サービス等の必要な支援に繋げるよう努めている。

特化した窓口はなく、今後の検討課題と認識している。

教育監 小・中学校では、生活アンケートや面談等、様々な側面から家庭生活における児童・生徒の実態や背景の把握に努めている。相談が必要な場合はスクールカウンセラーなど専門家が対応し、個々の状況に応じた適切な支援につなげている。



啓発への取り組み

馬場 埼玉県では、小学生、中学生、高校生、それぞれにわけて、啓発パンフレットを作成した。本市での啓発の現状と今後の啓発ツールの作成方針について示してほしい。

家庭 現時点ではヤングケアラーについての啓発は行っていないが、国において令和4年度から3年間を集中期間として社会的認知度向上の取り組みが予定されており、その機会を活用して啓発に努めたい。

児童虐待を防ぐために

馬場 11月25日、豊中市が府内の中核市としては初となる児童相談所を設置することを発表した。

児童虐待相談対応件数は全国的に増加傾向であり、吹田市においても同様である。十分ではないものの国の予算措置も拡充されており、本市としても児童相談所ならびに一時保護所の設置を急ぐべきである。

家庭 児童相談所の設置には、高度な専門性が必要であり、人的資源の確保および長期的な視点での人材育成が重要な課題であり、児童相談所の権限である一時保護などの介入機能を十分に発揮できる体制整備が求められるため、慎重に検討を進めている。

子どもの権利を守るため

馬場 児童相談所にたどり着いても、一時保護所や児童養護施設は閉鎖的であり、職員による虐待や入所児童間でのいじめもある。子どもの権利を守るために、弁護士への相談の機会を設けることも必要だと考える。

市のケースワーカーが紹介し、相談や訴訟の費用は市が一時立て替える制度の導入を求める声もある。

家庭 社会的養護を必要とする子どもの権利を守るために、子どもの声を聞き、その最善の利益を優先することは考慮しなければならない。

アウトリーチ型の支援の充実

馬場 児童相談所に相談があったり、通告が寄せられたりする場合は介入や支援につなげられる可能性があるが、重大事態に発展するものは表に出ない場合が多く、アウトリーチ型のアプローチが必要である。

以前、大東市が小学1年生の児童がいる全家庭を訪問している事例を紹介した。本市で実施されている全戸訪問による予防的支援は、生後4カ月の子供がいる家庭を対象とした「子ども見守り家庭訪問事業」だけであったが、拡充を検討したか。

家庭 予防的な関わりを強化するためには、アウトリーチ型の支援の充実が必要であるが、現在も「子ども見守り家庭訪問事業」の向上に取り組んでいる。

馬場 明石市では令和2年4月から、0歳児におむつやミルクなどを無償で月1回自宅まで届ける取り組みを始めた。これは経済的な支援でもあるが、母子の健

康状態や虐待の有無をチェックする見守り活動にもなっており、子育て支援の専門家からも高く評価されている。本市でも実施すべきである。

家庭 おむつ等の配布によるインセンティブ設定は面談率向上のためにも有用であると認識している。今後もアウトリーチ型支援策の効果的な推進に向け、そのような方策も含め、検討していく。

子どもたちに必要な知識を

馬場 児童・生徒に、どのような行為が、心理的虐待や性的虐待に当たるか、またそういう状況に遭遇しそうな場合の回避方法、189などの通報先について知らせる必要がある。

家庭 心理的虐待や性的虐待については、児童・生徒の年齢や発達に応じた伝え方等の配慮が求められることから、一律の周知は難しい面がある。「189」(いちはやく)などの相談先についてはリーフレットやカードの配布等を通じて周知に努めている。



ひきこもり支援について

馬場 ひきこもりの人たちの社会参加を支援するため、当事者が安心して過ごせる居場所の整備が全国の自治体で進みつつある。当事者と家族の高齢化の問題もあり、就労支援に限らない居場所の必要性は増している。

福祉 生活困窮者を対象に行っている就労準備支援事業が、ひきこもりの方々の居場所づくりにもつながっているものと考えている。

生活困窮者の多様かつ複合的な問題について意見交換を行うため、自立支援連絡調整会議を設置しており、ひきこもりの問題についてもこの会議で今後とも議論していく。

地教 ひきこもりなど社会生活を営む上で困難を有する39歳までの若者については、青少年活動サポートプラザに子ども・若者総合相談センターを設置し、当事者が安心して自由に過ごせる居場所を開設している。



総社市の居場所「ほっとタッチ」

旧市民病院跡地について

馬場 旧市民病院跡地売却に係る事業者公募があったが、再び不成立になった。その理由をどのように分析しているか。

健康 市民病院が応募事業者から聞き取りを行ったところ、開発に必要な造成工事の費用の把握が難しいため、事業化に至らなかったと聞いている。

馬場 公共施設用地として、吹田市での買取りを検討してはどうか。

健康 跡地の買取りについては、昨年度と今年度の売却にあたって、各部局に活用意向の紹介を行ったが、いずれも意向はなかったため、取得には至らなかった。改めて公募が行われる場合は、再度意向確認を行う予定である。

馬場 縦に細長い土地の形状がネックになっているとも聞く。隣接する片山小学校、幼稚園の用地と合わせて、きれいな区画で分け直すと土地の価値が上がるとの指摘もある。市にとっても、病院にとってもプラス効果があり、この手法も検討すべきではないか。

健康 現在、市民病院において売却の支障となる要因について調査を継続している。その結果を踏まえ、まずは土地の所有者である市民病院において、売却にむけて必要な対応などの検討を進めることになる。

大規模アリーナ建設

馬場 エキスポシティの建設に当たっては、吹田市の環境評価条例に基づき、交通に与える影響などについて審査が行われた。

それをクリアして開業したわけだが、現在の万博公園外周道路は、土日には1周するのに2時間も要するような大渋滞が発生している。これは環境アセスメントにおける想定範囲内なのか。

環境 万博外周道路では、エキスポシティ開業前の現地調査において、イベント開催時などの渋滞発生が確認されていた。環境アセスメントでは、この状況を悪化させないよう、オーバーパスや右左折レーンの新設などの対策を行い、供用後の事後調査において、予測の範囲内であることを確認している。

馬場 それでは、大規模アリーナ等の建設に関しても、たとえ環境アセスメントに諮ったとしても、渋滞が現状より悪化する可能性があるということか。

環境 現時点では事業提案がなされておらず、具体的な回答が難しい。

共同住宅は条例違反ではないか

馬場 地域住民向けの説明会において、大規模アリー

ナ事業予定者の提案内容に含まれる共同住宅について「スポーツ・文化に特化した住宅」とであると明らかにされた。その内容が市の条例に適合しているかどうか、事業予定者にはどのように伝えているのか。

都計 これまで大阪府同席のもと、事業予定者より共同住宅のコンセプトについて複数回説明を受けているが、条例に適合するかどうか、現時点で判断できる状況ではない。現在、さらに具体的な説明を求めているところである。

バリアフリーの推進について

馬場 吹田市では、交通バリアフリー法及びバリアフリー新法に基づき、平成13年からバリアフリー基本構想を策定し、駅前等の整備に努めてきた。

しかし、いまだその基準を満たさない道路等が見受けられる。市が管理する陸橋の内、傾斜が12分の1を満たしていないものの件数と今後の改修計画について示してほしい。

土木 重点整備地区内の生活関連経路を構成する歩道橋については縦断勾配の基準を満たしているが、それ以外の歩道橋については把握できていない。

既存の歩道橋の勾配を緩和するには架け替えが必要となるため、橋梁点検の劣化度等から架け替え時期と判断された場合に、縦断勾配の緩和も含めた改修を検討したい。

馬場 法律も改正が重ねられており、バリアフリー基本構想そのものの見直しにも着手すべきである。

土木 令和2年6月のバリアフリー法改正にともなうバリアフリー基本構想の見直しの必要性は認識している。今後、現行計画での整備状況を踏まえ、見直しの時期を検討していく。

| | |
|------------------------|--------------------|
| 学教 = 学校教育部長 | 地教 = 地域教育部長 |
| 家庭 = 家庭児童相談担当理事 | |
| 児童 = 児童部長 | 健康 = 健康医療部長 |
| 環境 = 環境部長 | 都計 = 都市計画部長 |
| 土木 = 土木部長 | |

11月定例会は11月24日から12月20日まで開催予定

⇒「市民と歩む議員の議会報告」次号は1月中旬に発行予定です。

馬場けいじろうプロフィール

昭和52年9月28日生まれ
西吹田幼稚園、吹田第二小、吹田第六中、東大寺学園高校、早稲田大学政治経済学部卒
平成27年4月 吹田市議会議員 初当選（現在2期目）
〈議会での役職〉
議会運営委員会副委員長、文教市民常任委員会委員、都市計画審議会委員